

2. 火山の概況

(平成16年4月8日～平成16年4月14日)

十勝岳では微動が発生した。

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。火山活動度レベル(以下レベル)は2。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

霧島山では噴気活動のやや活発な状態が続いた。

薩摩硫黄島では降灰があった。

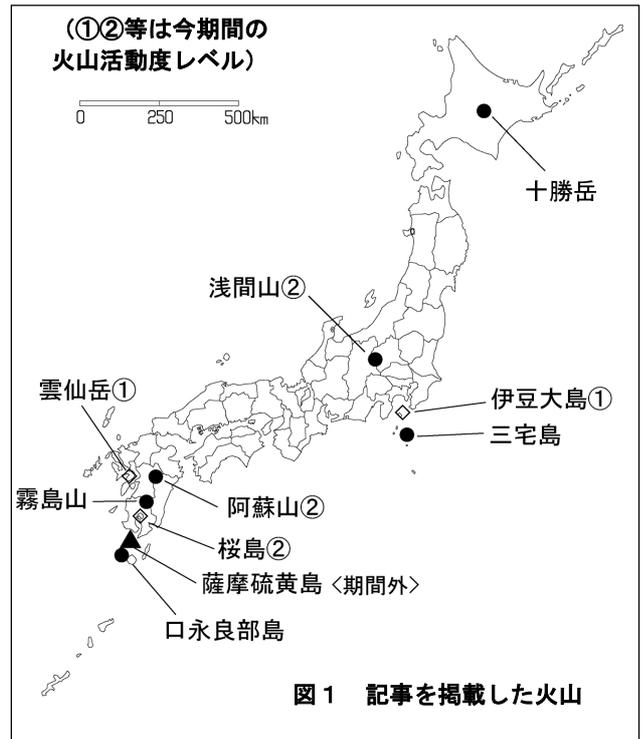


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を掲載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		十勝岳	三宅島	霧島山	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号							
17	4/15- 4/21																	▲
16	4/8- 4/14	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	●	●	●	●
15	4/1- 4/7	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇		●	●	●	●	●	●
14	3/25- 3/31	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲	▲	●	▲	●	●	●	▲
13	3/18- 3/24	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●		●	●	▲	●	●	▲
12	3/11- 3/17	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●		●	●	●	●	●	●

(※: 気象庁職員が山頂付近で作業を行った際に、山頂付近に限定されると思われる微弱な降灰を確認した。これまでも同様の現象はあったものと思われる。)

注1 記号の意味

- ▲: 噴火した火山
- : 観測データ等に变化があった火山
- ◆: 前期間まで▲や●で掲載した火山の、その後の状況等
- ◇: その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字: 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

● 十勝岳 [微動]

9日と12日に小さな火山性微動が観測された。微動の発生前後で火山性地震の増加は見られなかった。なお、微動発生時の62-2火口の噴煙の状況は悪天のため確認できなかった。

十勝岳では2月25～26日にも同様な微動が観測されているが、これらの微動はいずれもマグマ活動に起因したものではなく、浅部の熱水活動に関係した現象と考えられる。今回の微動は2月25～26日の微動に比べて継続時間は数分の一以下と小さなものであった。

地震の発生状況や地殻変動には特段の変化は見られていない。

● 浅間山 [地震・微動・熱] レベル2 (やや活発な火山活動)

昨年6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間も38～83回とやや多い状態が続いた。振幅の小さい微動は8日に1回、9日及び13日に各2回、11日に3回の合計10回観測された(前期間は9回)。

監視カメラによると、観測された噴煙は白色で噴煙の高さの最高は火口縁上300mであった。

赤外線カメラ(群馬県林務部が火口縁に設置)では、火口底に引き続き高温部が確認され、時折、一時的にその面積が拡大する現象が見られたが、昨年の夏ごろに見られていた同様の現象と比較すると面

積は狭いものであった。

◇ 伊豆大島 レベル1（静穏な火山活動）

12日に山頂直下でやや規模の大きい地震が発生したが（震度1以上の観測点なし）、その後、同規模の地震の発生はなく、その他の地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

● 三宅島 [噴煙・火山ガス・微動]

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上500mであった。

8日に行った火山ガスの観測¹⁾では、二酸化硫黄の放出量は日量5600～14,400トンで依然多い状態であった（図2）。

振幅の小さいやや低周波の地震は、1日あたり5～27回と少ない状態で推移した。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から始まった三宅島の収縮傾向が継続している。

1) 警視庁の協力による

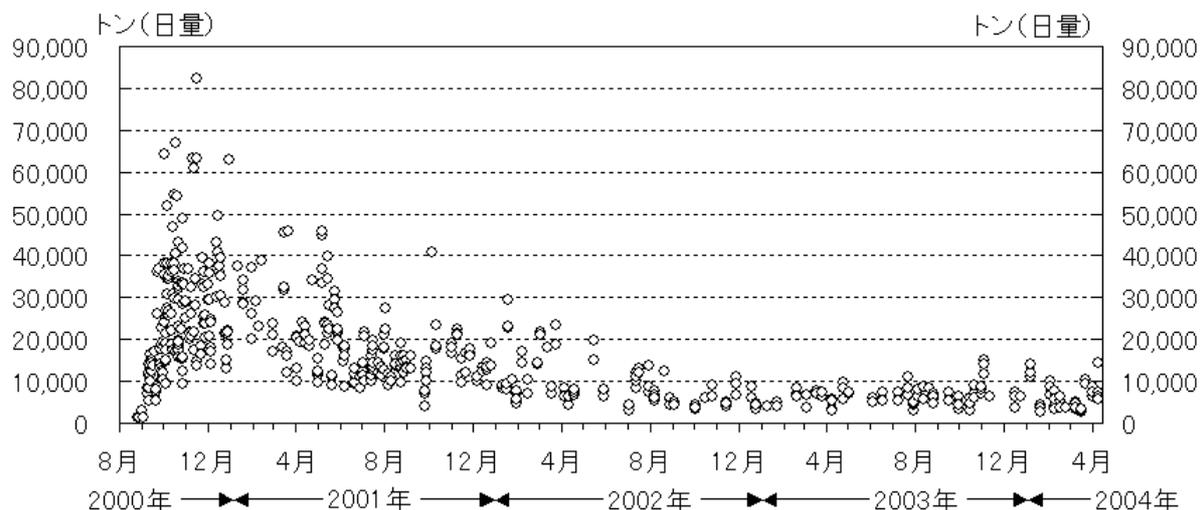


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移（2000年8月26日～2004年4月14日）

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動] レベル2（やや活発な火山活動）

中岳第一火口では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

9日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は約3割（前期間も約3割）で、湯だまりの表面温度の最高は76℃（前期間70℃）、火口壁の最高温度は391℃（前期間361℃）と依然高温状態にあった。湯だまり中央部で約5mの土砂噴出がみられた他、湯だまり南西縁の噴気孔から勢いよく噴気を噴出していた。

12日～15日に連続微動を観測した。また、孤立型微動は、今期間658回と前期間（350回）に比べやや増加し、依然として多い状態が継続している。

噴煙は白色で、噴煙の高さの最高は火口縁上500m（前期間500m）であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● **霧島山** [噴気]

悪天により観測できなかった日を除き、全期間を通じて御鉢で火口縁を越える噴気が遠望カメラで観測され、その最高は火口縁上 400m (11 日～13 日) であった。火山性微動は観測されなかった。

◇ **桜島** レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(前期間もなし)。今期間の噴煙の最高高度は火口縁上 700m (白色) であった。鹿児島地方気象台 (南岳の西南西約 11km) では、昨年 11 月 19 日を最後に降灰は観測されていない。

▲ **薩摩硫黄島** [降灰・微動] <期間外の記述を含む>

三島村役場硫黄島出張所によると、15 日朝、集落 (硫黄岳の西南西約 3km) で少量の降灰があった。振幅の小さい連続微動が 9 日から 10 日まで続いた。

● **口永良部島** [地震・微動]

2 月 2 日に多発して以降増減を繰り返している地震回数は、今期間も短時間に集中して発生することではなく、期間中の合計は 11 回であった (前期間は 7 回)。火山性微動は 5 回発生した (前期間はなし)。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 194 号	8 日 09:30	活動経過ほか (噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	↓ (1 日 2 回発表)	↓	
	火山観測情報第 207 号	14 日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第 23 号	9 日 11:30	火山活動は引き続きやや活発 (連続微動発生、小規模な土砂噴出多数発生、湯だまりの高温状態継続)。レベルは 2。
霧島山	火山観測情報第 20 号	9 日 15:00	御鉢の噴気活動は消長を繰り返している。
薩摩硫黄島	火山観測情報第 4 号	9 日 11:00	火山性微動が収まる。